

## 新築同様の構造・性能を 具現しながら3世代家族の歴史を 継承するリノベーション。

### 北海道レベルの 温熱環境に改修

一般的なりフォームでは、不便になった箇所を更新したり、古くなった設備の変更などの工事が大半を占め、構造的な補強や更新、断熱的なりフォームにまで踏み込む工事はほとんどない。表面的には新しく見えても、結露や寒さ、暑さなどの対策がおざなりにされたりフォームは工事直後から腐朽などの問題が再発し、結果として、その後もりフォームを繰り返して建て替えに行き着くケースが少なくないのは周知の通りだ。

既存の建物の構造を根本的に更新しながら、耐震・断熱・気密などの性能を確保することを、従来のリフォームとは一線を画して、リノベーションという設備の更新まで含めると新築同様の機能はもちろん、高いレベルの耐震性、温熱環境なども確保されるが、再生可能な部材や部位、設備はそのまま活用できることから、家族の歴史や思い出をそ

のまま継承できるメリットがある。そうした意味では、新築ともりフォームとも異なる新たな選択肢といつてよい。

A邸は、ご両親と若夫婦家族との同居をめざしてリノベーションされた3世代住宅。既存の基礎は残しながらもベタ基礎とし、構造体の補強、断熱改修、気密処理も徹底し、温熱環境はQ値1・6W/m<sup>2</sup>・K、C値0.3cm/mと国の次世代省エネルギー基準の北海道レベルをクリア。

結露・カビ対策、化学物質・空気質対策も万全としながらも、りフォーム工事扱いとなることで新築よりも税金・登記等の諸費用も割安で済み、旧宅で利用してきた部材の一部も再利用できることでその部分でのコスト削減も可能となった。

### 床下のエアロんで 全館・輻射暖房

断熱は壁がグラスウール24K50ミリ、スタイロフォーム50ミリ外張り。屋根は



2間続きの和室。床下から壁を暖める  
同社オリジナル「WAC」方式で、暖房器露出がなく、  
どこにいても寒さを感じない全館暖房。



階段下も収納に。  
全館暖房のため、  
収納も温度は一定。  
収納物が  
カビることもない。



リビングと和室は段差がなく続き、  
和室を通り抜け玄関に回る機能性。



和室からLDを望む。  
引き戸を開閉することで  
空間は自在に変化する。



キッチンから洗面、浴室と直線で結ぶ。  
リビングからは視えない裏動線でもある。



家族がワイワイ集っても  
余裕の作業ができるキッチンは  
6.4帖大の広さ。



LDは15.6帖大の広さ。  
床はバイン無垢、腰板はヒノキ1400ミリ高。  
木質感漂う空間。



若夫婦世帯の2階リビング。  
ガラスブロックが2階ホールに降り注ぐ光を映し、  
いつも明るさたっぷり。

グラスウール細繊維200ミリ（二部屋  
根断熱200ミリ）、基礎は外側にスタ  
イロエース50ミリ+土間下同30ミリとし、  
床下に暖房用として高効率エアコン3台  
1階・2階に冷房用エアコン各1台設置  
し、壁を通して全館に暖めた熱を配り、

#### DATA

- 竣工
- 2011年7月
- 工法
- 断熱改修リノベーション
- 延床面積
- 184.86㎡（約56坪）
- (1階：92.95㎡・2階：91.91㎡)
- 断熱仕様
- 屋根：高性能グラスウール200mm
- 壁：軸間グラスウール24k50mm+押出法ポリスチレンフォームBⅢ種50mm外張り
- 基礎：内側・押出法ポリスチレンフォームBⅢ種50mm+外側・押出法ポリスチレンフォームBⅢ種50mm
- 窓：樹脂サッシ（Low-E複層ガラス）
- 隙間相当面積
- 0.3cm<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>
- 熱損失係数
- 1.6W/m<sup>2</sup>・K
- 設計・施工
- (有)ホクブプランニング
- 岩手県滝沢村菓子133-3
- TEL 019-688-6655
- E-mail/sumai@hokubu-p-18.jp
- http://www.hokubu-p-18.jp/

やわらかな輻射熱によって暖房する方式。

基本的暖房設備は60万円程度で済み、蓄熱式電機暖房器やヒートポンプ式温水暖房のイニシャルコストよりはるかに割安で済むのが大きな魅力。断熱・気密といった性能を高めることで、冷暖房設備のコストダウンが図られ、全体のコストを抑制しようという生活者感覚の仕様ともいえる。ちなみに、エアコンもヒートポンプの一種であり、APF（通年エネルギー消費効率）は5〜6前後。エネルギー消費は蓄熱式電機暖房器の5分の1程度（深夜電力割引などを使用しない場合）で同じ暖房効率を確保できるため、環境への負荷も少なく、家計への負担も軽減される。

室内側でのコントロールが可能で、微調整もできることから、より細やかな省エネ運転ができることもメリットだ。このシステムを同社では「Warm Air Cycle II WAC」と名付け、新築、リ



2階ホール。天窓から1日中、光が降り注ぐ。手すりの片側はガラスブロック、もう片側は本棚とした。正面が夫婦の寝室。アールの壁でクローゼット。



12帖大の子ども部屋。将来は2室に間仕切りも可能でロフトも設置。



子ども部屋に設置されたロフト。明るさ、暖かさともロフトであることを感じさせない。収納にも活用できる。



2階リビング。いつもは開けっぱなしで、子どもたちが自由に入出入りする。食事は3世代が1階に集まってするため、調理器具は最小限。



大人の風格と個性を感じさせる黒のガルバリウムに真っ赤な断熱ドア。窓下はポスト。

2階ホールの天窓はスウェーデン製木製サッシ。1階の開口部を開けることで空気がここから排出もされ、自然換気も可能。



## パブリックは3世帯で生活空間は2つに分離

ノベーションとともに標準仕様としたいと考えている。

1階はご両親、2階は若夫婦と3人のお子さん専用のスペース。玄関フロアから2間続きの和室、居間をぐるりと回る回遊型の設計とし、階段もここに設けることで、2階とのスペース分けを試みた。階段は幅90センチ、蹴上180ミリとし、小さな子どももお年寄りも昇降しやすいよう配慮されている。

リビングは15・6帖の広さ。床はパイロン無垢15ミリ、壁の腰板はヒノキ。腰板は1400ミリと高めにすることで、空間の木質感を強調するとともに、小さなお子さんが壁際を汚すことへの対処と

している。収納はオリジナルの造り付けでキャスター付き。キッチンからは洗面、浴室と一直線に結び、来客時ここが裏動線となり、家事や入浴などの光景はビハインドされる。

2階に昇ってまず目を惹かれるのが天窓から降り注ぐ陽光とその光を湛えるガラスブロック。食事や団らんのご両親と二緒が基本となるため、2階LDKは軽食準備ができる程度の12帖で割り切った。

子ども部屋は6帖と12帖の2室。12帖の部屋は将来、さらに2つに分けて利用できるようにした可変プランで、収納を兼ねたロフトも設置。寝室も最小限のスペースとし、その分、アール壁を設置してクローゼットをたっぷりとってある。

リノベーションだけに、床柱や出窓カウスター、和室の机などは旧宅のものを再利用。空間そのものは新しくなったとはいえ、さりげない部位に旧宅の面影が残ることで、家族の歴史が静かに息づいている。それまでアパート暮らしだった若夫婦世帯が一緒に住むことで、家族固有の歴史や文化が継承されることの意味も大きい。

新築でもリフォームでもない、第三の選択肢ともいえるリノベーション。高断熱・高气密に特化した性能を模索し続けて四半世紀。これまでたくさん家族に寄り添い、家族の暮らしのかたちの数だけ、固有の家を具現してきた同社ならではのノウハウが随所に光る物件でもある。